

# 瀬田川プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター  
琵琶湖水質担当

昭和58年11月14日 第30報

## 植物プランクトン

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(藍) <i>Aphanothece clathrata</i> *	120		
(黄鞭) <i>Mallomonas</i> sp.	40		
(珪) <i>Melosira granulata</i>	500	○	
(珪) <i>Melosira distans</i>	80		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	80		
(珪) <i>Nitzschia acicularis</i>	60		
(珪) <i>Nitzschia</i> sp.	40		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	200		
(緑) <i>Ankistrodesmus falcatus</i>	240		
(緑) <i>Pediastrum biwae</i>	1280	◎	
(緑) <i>Closterium aciculare</i> var. <i>subpronum</i>	20		
(緑) <i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>	60		◎
(緑) <i>Staurastrum arctiscon</i>	20		○
(他) その他の植物プランクトン	60		
(藍) 藍藻綱	120	4.3	0.9
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	40	1.4	0.6
(珪) 珪藻綱	760	27.1	13.6
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	200	7.1	5.4
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	1620	57.9	79.5
(他) その他のプランクトン	60	2.1	0.0
総細胞数	2800	総体積 ( $\mu\text{m}^3$ )	6.35E+06
種類数	14		

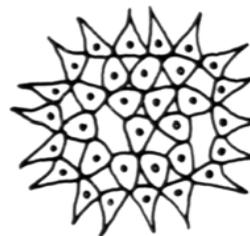
- 注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)  
ただし\*印の種は群体数(群体/ml)
- 注2) 優占種は◎が第1優占種、○が第2優占種  
数字は各綱ごとの占有率(単位:%)
- 注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から  
試験的に推定した概算値である。

## 植物プランクトン優占種

第1優占種		細胞数 (細胞数/ml)
緑藻綱	<i>Pediastrum biwae</i>	1280

第2優占種		細胞数 (細胞数/ml)
珪藻綱	<i>Melosira granulata</i>	500

植物プランクトン第1優占種



*Pediastrum biwae*  
(ピワクンショウモ)  
緑藻綱

16, 32, 64細胞からなる群体を形成する。各細胞は1本の角状突起を持ち、突起同士が対をなすのが特徴である。琵琶湖の固有種とされ、ピワクンショウモと呼ばれている。

植物プランクトン第2優占種



*Melosira granulata*  
(メロンラグラヌラータ)  
珪藻綱

細胞は円筒形で、糸状の群体を形成する。群体の両端に顕著な長い剛毛を1~3本有する。